

## 第6回ピッチイベント テーマ一覧

<b>テーマ1：舗装面から対策可能な橋面防水工の施工技術</b>
<b>【 ニーズの概要 】</b> 橋梁の現状の舗装を生かしたまま防水層を生成する技術
<b>【 求める技術 】</b> ○ 既設舗装面からコンクリート床版上面まで含浸性を有し、床版躯体へ水が浸入しないよう防水又は止水効果を発揮する材料、技術。
<b>【 求める条件 】</b> ○ 特別な機材・熟練作業を不要とし、地元中小建設業者でも施工が可能であり、効果の継続性（恒久性）があるもの

<b>テーマ2：路面性状調査（狭い道路で車両を使用しない調査技術）</b>
<b>【 ニーズの概要 】</b> 狭い道路（幅員1～2m）において、車両を利用しない調査技術
<b>【 求める技術 】</b> ○ 狭い道路で調査が可能な技術であり、情報の共有と記録ができるシステムである技術
<b>【 求める条件 】</b> ○ MCI に変わる調査手法の提案 （補足）基準をつくる際の単位の設定（従来は20mピッチ）

※各テーマに記載している【求める技術】【求める条件】は、令和2年10月21日に開催した「第8回フォーラム」の討議結果を踏まえたものです。

※ピッチイベントの結果、公共施設管理者のニーズに適応する可能性が高いと認められた技術については、実用化の可能性を検証するフィールド実証実験の実施を想定しています。なお、実証実験に必要な諸費用については、原則、民間事業者などのご負担とします。

**テーマ3：道路法面保護施設（モルタル吹付）の地山との空洞化（密着度）やラス網の有無の調査技術**

**【 ニーズの概要 】**

モルタル吹付部の空洞、ラス網の有無が職員でも簡単に調査できる技術

**【 求める技術 】**

- モルタル吹付の空洞、ラス網の有無を確認する技術

**【 求める条件 】**

- 足場やロープ等の仮設が不要であること

**テーマ4：常時水没している構造物点検の効率化技術**

**【 ニーズの概要 】**

①ポンプ場、排水機場のポンプ井、港湾・海岸の岸壁や護岸等常時水没している構造物について、壁面や護岸、鋼構造物の点検・診断する技術

② ①について、職員でもできる技術

**【 求める技術 】**

- 濁りに対応できるもの  
(鮮明な写真・映像で確認ができるもの)
- 点検位置（箇所）が把握できるもの
- ※必須では無いが、下記3点についても求める技術とする
  - 栈橋の裏面も同時に点検できるもの
  - 水中での非接触型の鋼構造物の肉厚計測
  - 鋼構造物の腐食状況等を把握できるセンサー（計測器）

**【 求める条件 】**

- ある程度の流速に対応できるもの
- できれば直営（職員）でできるもの

※各テーマに記載している【 求める技術 】【 求める条件 】は、令和2年10月21日に開催した「第8回フォーラム」の討議結果を踏まえたものです。

※ピッチイベントの結果、公共施設管理者のニーズに適応する可能性が高いと認められた技術については、実用化の可能性を検証するフィールド実証実験の実施を想定しています。なお、実証実験に必要となる諸費用については、原則、民間事業者などのご負担とします。

<b>テーマ5：流入水によるマンホール内壁面の摩耗を防止するための防護材技術</b>
--

<b>【 ニーズの概要 】</b>
-------------------

水叩き部における安価で耐水性に優れた防護材技術
-------------------------

<b>【 求める技術 】</b>
------------------

- |                      |
|----------------------|
| ○ 洗堀防止に特化したライニング等の技術 |
|----------------------|

<b>【 求める条件 】</b>
------------------

- |  |
|--|
| ○ 止水できない路線でも施工可能なこと                              |
| ○ 部分的損傷を受けた場合でも一定期間その部材が流出せず、かつ流入水の衝撃に長期間耐えられること |

<b>テーマ6：水路クラックの簡易補修技術</b>
---------------------------

<b>【 ニーズの概要 】</b>
-------------------

水を止めずに、地元業者・職員でも簡単に施工できる技術
----------------------------

<b>【 求める技術 】</b>
------------------

- |                  |
|------------------|
| ○ 水路のクラックの穴埋めの技術 |
|------------------|

<b>【 求める条件 】</b>
------------------

- |          |
|----------|
| ○ 材料の密着性 |
|----------|

※各テーマに記載している【 求める技術 】【 求める条件 】は、令和2年10月21日に開催した「第8回フォーラム」の討議結果を踏まえたものです。

※ピッチイベントの結果、公共施設管理者のニーズに適応する可能性が高いと認められた技術については、実用化の可能性を検証するフィールド実証実験の実施を想定しています。なお、実証実験に必要となる諸費用については、原則、民間事業者などのご負担とします。